

今年度の特記事項

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、随時府中市と協議し、事業の休止・縮小等を行い対応した。それにより、人件費・事務費・事業費ともに減支出となった。
- ・府中市の相談受理システムの変更が軌道にのり、安定的に運用されている。
- ・ひろば・リフレッシュ保育事業のシステムの入替えを行った。
- ・講座・交流会の開催は、新型コロナウイルスの感染状況、社会状況により柔軟に対応した。

1 財務の健全化

- ・委託料増額要望が実現の中、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業の休止・縮小を余儀なくされた。人件費は大きく減支出となり、事務費・事業費も減支出となったため、府中市主管課長の承諾を得たうえで、次年度以降に備えた運営調整資金の積立を行った。

2 組織力の強化

- ・ファミリー・サポート・センターの会員・利用管理新システムは安定的に運用されているが、更なる効率化が課題となった。
- ・ひろば・リフレッシュ保育事業のシステムを決定・導入し、運用した。
- ・職員の適正配置について、コロナ禍での事業縮小等変則的な勤務状況のなか検討に至らなかった。
- ・経理業務の体制、内部管理体制構築のための点検項目の整備は、継続課題となる。

3 職員力の強化

- ・職員の専門性の維持・継承のための人材育成の仕組みづくりについては、検討に至らず、継続課題となる。
- ・コロナ禍により、施設見学・実習への職員派遣は見合わせた。母子三施設によるZOOMでの研修、事例検討会を実施した。
- ・防災訓練は見直しをしながら取り組み、配信動画を活用した研修を実施するなど、職員の意識向上に取り組んだ。実効性のあるマニュアル作り、機器マニュアル作りは今後も継続する。

4 地域支援の定着

- ・地域連携会議および子育て会議について、府中市と協議・確認をしながら定例的に運営した。
- ・利用者支援事業については、地域連携会議の報告を部署会議とするなど職員の意識向上に取り組んだ。
- ・ボランティア活動は休止となったが、登録ボランティアにはたちの状況を発信し、サポートした。

5 利用者サービスの向上

- ・要綱・仕様書の見直しには着手できなかった。現状をふまえての内容確認を今後の課題とする。
- ・ひろばについては、コロナ禍における利用についての内容を付加したアンケートを行った。定員制・予約制の利用方法には理解ある結果がえられており、今後は、感染対策を継続し、利用者親子のニーズとひろばの在り方をすりあわせながらの取り組みが課題となる。
- ・子育て交流会・子育て講座は、感染拡大予防対策のため、定員・時間等を縮小して企画した。中止になったものもあるが、日程や内容を変更し、事業の目的達成のため柔軟に取り組んだ。